

# 中国語を母語とする上級日本語学習者の日本語発話にみられる「強さ」

孔 令玉 (KONG LINGYU)

専修大学大学院 文学研究科

## 研究・実践の目的・背景

中国語を母語とする日本語学習者の日本語発話が、日本語母語話者に「強く聞こえる」と言われることが多いが、それについての先行研究はほとんどない。しかし、非母語話者の立場から見ると、自然な日本語で話すことが、多くの日本語学習者の目標だと思われる。発話の強さは日本語らしさに大きく関与し、自然な日本語を身に付けることを目指す中国語母語話者にとっては、注意すべき重要なポイントだと思われる。

本研究では、学習者の母方言の影響を考慮し、学習者の日本語発話の基本周波数 F0 に焦点を絞り、中国語母語話者の日本語発話の強さと F0 との関係を明らかにすることを目的とする。

## 研究内容・実践内容

本研究では、言語習得に対する学習者の母語（母方言）の転移を考え、学習者（大学在学中・上級レベル 20 名）を母方言の破裂音の体系に有声と無声の対立がない北方方言話者（12 名）とそれ以外の他方言話者（8 名）を二つのグループに分け、日本語テキストの音読実験を行った。テキストの原文は次のとおりである。「日本では、進学、特に大学に入るための受験勉強が大変です。入学試験は知識の量を測る問題が多いので、受験勉強は暗記することが中心になってしまいます。そのため、現代の子供たちは、自分の頭で考える力が弱いと言われています。」

音読実験のデータを 4 名の日本語母語話者（大学学部生・そのうち日本語教師経験者 2 名）に聞かせ、学習者の日本語発話の強さを五段階評価で評価してもらい、音声分析ソフト praat により音響的分析を行った。五段階評価の評価基準は次のとおりである。①特に感じません ②気にならない程度ですが、少し感じます ③少し感じます ④感じます ⑤とても感じます。

## 結果・考察の概要

図 1 は、評価基準の②～⑤に 2 人以上の評価者に共通して評価された学習者を示すものである。

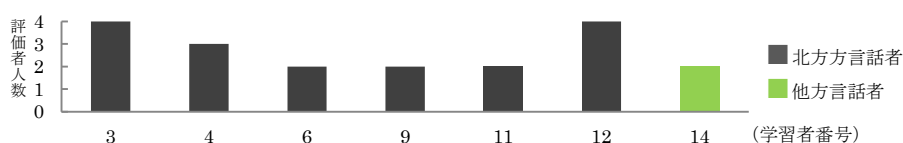


図 1 発話の強い学習者と評価者人数分布

この評価結果から、中国語北方方言話者の日本語発話は他方言話者と比べ、日本語母語話者にとって、より強く聞こえるということが明らかになった。

Praat による F0 の分析結果を表 1 と表 2 に示す。12 名の北方方言話者の F0 平均値は 193.86Hz になり、他方言話者の F0 平均値は 122.49Hz になる。分析結果を有意水準 5% で両側検定の t 検定を行ったところ、 $t(18)=3.93$ 、 $p=0.001$  で有意差が認められた。

この結果から、中国語を母語とする日本語学習者は、日本語発話の F0 が学習者の母方言に影響されることがわかった。

表 1 北方方言話者の分析結果

| 学習者 | mean pitch(Hz) | pitch range(Hz) |
|-----|----------------|-----------------|
| 1   | 213.11         | 344.72          |
| 2   | 202.97         | 170.87          |
| 3   | 196.62         | 171.81          |
| 4   | 139.97         | 149.10          |
| 5   | 208.03         | 204.58          |
| 6   | 228.04         | 307.41          |
| 7   | 118.78         | 180.52          |
| 8   | 216.61         | 230.68          |
| 9   | 194.86         | 174.68          |
| 10  | 199.65         | 385.93          |
| 11  | 205.76         | 314.49          |
| 12  | 201.95         | 194.21          |

表 2 他方言話者の分析結果

| 学習者 | mean pitch(Hz) | pitch range(Hz) |
|-----|----------------|-----------------|
| 13  | 117.13         | 178.82          |
| 14  | 103.23         | 64.45           |
| 15  | 112.19         | 212.22          |
| 16  | 106.28         | 158.08          |
| 17  | 121.03         | 185.91          |
| 18  | 98.61          | 60.97           |
| 19  | 184.91         | 361.82          |
| 20  | 136.56         | 222.83          |

次に、「日本語発話が強く聞こえる」と評価された学習者とその他の学習者の F0 平均値はそれぞれ 181.49Hz と 156.60Hz になり、 $t(18)=1.15$ 、 $p=0.26$  で有意差が見られなかった。また、ピッチレンジの平均値はそれぞれ 196.59Hz と 222.92Hz になり、 $t(18)=0.62$ 、 $p=0.54$  で有意差がなかった。

この結果から、母語話者に「日本語発話が強く聞こえる」と評価された学習者の F0 は、その他の学習者との間に特に差がなかったことがわかった。

以上の実験と分析を通し、中国語母語話者の日本語発話が「強く聞こえる」と、学習者の日本語発話の F0 との間に明確な関連性は観察されなかったが、学習者の母方言が日本語発話の強さと F0 に影響を与えることが明らかになった。

## 主要参考文献

- 平野宏子・広瀬啓吉（他）（2006）「中国語話者の日本語朗読音声の韻律的特徴と母語話者評価」『聴覚研究会資料= Proceedings of the auditory research meeting』36(1), pp.149-154 日本音響学会
- 平野宏子・広瀬啓吉（他）（2009）「母語話者と中国語話者の日本語朗読音声の基本周波数パターンの比較」『日本音響学会誌』65（2）, pp.69-80 日本音響学会